

公益社団法人日本動物学会 平成 25 年度事業報告

1. 定時社員総会

平成 25 年 9 月 27 日(金)岡山市民会館で開催主な議案は

- ①平成 24 年度 公益社団法人日本動物学会事業報告
- ②平成 24 年度 社団法人日本動物学会決算報告（貸借対照表、損益計算書、及び財産目録）

2. 学術集会の開催

平成 25 年 9 月 26 日から 28 日まで、第 84 回日本動物学会大会を岡山大学で開催。大会準備委員会を組織して、講演、シンポジウム、高校生発表等を行った。（公益 1）一般講演 569 演題，シンポジウム 16 企画 87 演題，関連集会 7 企画 28 演題，下村脩博士の特別講演，動物学のひろば（玉野市立玉野海洋博物館）は 9 企画，高校生ポスター発表 57 演題。大会参加者は 930 名

3. 学術誌の刊行

Zoological Science (ZS)の刊行（第 30 巻 7 号～第 31 巻 6 号）。年 12 回発行、1000 頁。

ZS の編集は、編集委員会委員（海外委員 2 名を含む）が行った。編集委員会は 1 回開催（公益 1）

4. Web による広報活動の促進とニュースの発行

HP を利用して、大学等研究機関による職員募集、科学者によるセミナー、シンポジウムの開催通知、動物学研究トピックスなどを随時掲載した。ニュースを月 1 回発行。

5. データベース構築(ZooDiversity Web)

国際情報発信強化（B）の採択を受けて、かねてより計画していた、Zoological Science 3800 論文が対象とする動物種を調査し、データベース化およびシステムの構築を行った。（公益 1）

6. Virtual Issues の発行

本年度は、5 における 3800 論文が扱う動物種の調査を行ったため、新たな Virtual Issues の刊行は行わなかった。

7. 研究の表彰

・日本動物学会賞

会員を対象とし、動物学研究に新たな知見をもたらした研究に授与。本年は 2 件を、学会賞等選考委員会による審査を経て、理事会の審議により決定した。

1.岡 良隆（東京大学大学院理学研究科・教授）

「生殖の中枢制御に関わるペプチドニューロン系の研究」

富岡 憲治（岡山大学大学院自然科学研究科・教授）

「昆虫の概日時計機構に関する神経生物学的研究」

・日本動物学会奨励賞

会員を対象とし、今後の動物学研究を推進することが期待される若手研究者に授与。本年は 2 件を、学会賞等選考委員会による審査を経て、理事会の審議により決定した。

1 沓掛 磨也子 (産業技術総合研究所・主任研究員)「昆虫社会の成立・維持機構と進化に関する研究」

2.小柳 光正 (大阪市立大学大学院理学研究科・准教授)「分子進化的・分子生理学的アプローチによる動物の光受容の分子基盤の研究」

・ Zoological Science Award

平成 24 年に出版された ZS 掲載論文より、各分野において、優秀でインパクトのある論文の著者に授与する。ZS 編集委員会による審査を経て、理事会の審議により決定した。(公益 1)

1.Michio Sugahara, Yasuichiro Nishimura, and Fumio Sakamoto

Differences in heat sensitivity between Japanese honeybees and hornets under high carbon dioxide and humidity conditions inside bee balls.

29: 30-36

ニホンミツバチがスズメバチ類を撃退するためにつくる蜂球に関する論文。これまでの研究から、蜂球内の温度と CO₂ 濃度の上昇がスズメバチを死に至らしめる要因ではないかと考えられていた。本研究では 4 種のスズメバチ、ニホンミツバチ、セイヨウミツバチを用いて、ニホンミツバチがスズメバチに対して形成する蜂球内の環境を解析することにより、CO₂ 濃度と湿度の上昇がスズメバチの熱耐性に影響する可能性について言及している。

2.Hiroki Hata, Rieko Takahashi, Hiroshi Ashiwa, Satoshi Awata, Tomohiro Takeyama, Masanori Kohda and Michio Hori

Inheritance Patterns of Lateral Dimorphism Examined through Breeding Experiments in Tanganyikan Cichlid (*Julidochromis transcriptus*) and Japanese Medaka (*Oryzias latipes*)

29:49-53

タンガニーカシクリッド (*Julidochromis transcriptus*) とメダカ (*Oryzias latipes*) を用いて交配実験により口吻部の左右性の遺伝様式を調べ、lefty allele が righty allele に対して優性であり、単純なメンデル遺伝を示すことを明らかにした論文である。左右性という形質が系統的に離れた種においても類似の遺伝様式をとることを示したこの研究は、左右性の表現型多型が生ずる遺伝学的メカニズムを探る第一歩として、興味深く重要な論文である。

3.Kyoko Kamiya, Keiji Yamashita, Toshiharu Yanagawa, Toyoki Kawabata and Kenji Watanabe

Cypris Larvae (Cirripedia: Balanomorpha) Display Auto-Fluorescence in Nearly Species-Specific Patterns

29: 247-253

フジツボ類は船底や港湾施設の汚損生物であり、遊泳する幼生が基質に着底するキブリス段階での簡便かつ正確な種同定法が求められてきた。本研究は第一著者の博士論文研究の

一部であり、キプリス幼生の自家蛍光パターンが種判別に有用であることを報告した画期的論文である。この技術はフジツボ類だけでなく他の小形動物にも転用できる可能性を秘めており、今後の応用研究が期待される。

4.Kazuya Kobayashi, Takanobu Maezawa, Haruka Nakagawa and Motonori Hoshi
Existence of Two Sexual Races in the Planarian Species Switching between Asexual and Sexual Reproduction

29: 265-272

プラナリアの同一種の中に、有性生殖しか行うことが出来ない個体と無性生殖へも転換できる個体が存在することを実験によって見事に示した論文である。独自の実験系を利用して、性の進化や転換という動物学の根本課題に迫るというアプローチは、まさに動物学の醍醐味であり、今後の分子基盤の研究などへの発展も大いに期待されることから論文賞にふさわしいと考えられる。

5.Nahid Sultana Lucky, Ryo Ihara, Kosaku Yamaoka and Michio Hori
Behavioral Laterality and Morphological Asymmetry in the Cuttlefish, *Sepia lycidas*

29: 286–292

コウイカの甲形態に左右性の違いがあり、その左右性とコウイカの補食行動の左右性（右から獲物を捕獲するか左から捕獲するのか）が正に相関することを示したこの論文は、研究例の少ない無脊椎動物における左右性多型とその進化的意味について形態と行動の 2 つの側面から挑んだ興味深い研究である。

6.Makoto Urata, Sadaharu Iwasaki and Susumu Ohtsuka
Biology of the Swimming Acorn Worm *Glandiceps hacksi* from the Seto Inland Sea of Japan

29: 305-310

筆頭著者はこれまでギボシムシに関する系統・分類・発生・進化・生態といった幅広い分野にわたる総合的な自然史科学を推進しており、後口動物の進化を考える上で極めて重要なこの群に関する動物学的知見の増進に大きく寄与してきた。本研究で著者らは瀬戸内海の小久野島（「こぐのしま」乃至「こくのじま」）で発見したハネナシギボシムシを2年間にわたって定期採集し、詳細な飼育観察に基づいてその行動・生態を明らかにした。恐らく将来にわたってこの分野の教科書に引用され続けるであろう好論文である。

7.Shohei Komaki, Atsushi Kurabayashi, Mohammed Mafizul Islam, Koji Tojo, and Masayuki Sumida
Distributional Change and Epidemic Introgression in Overlapping Areas of Japanese Pond Frog Species Over 30 Years

29: 351-358

本論文は、日本中部における日本産の3種のヌマガエル類の移入雑種形成と、生息域による移入交雑過程の違いを示したものである。筆者らは、松本盆地と伊那盆地の30地点か

ら合計233個体を採集し、それらに対するアロザイム解析と mtDNA 解析により、近接した2つの盆地間が接している地域での交雑、移入、特定種集団の消滅過程と地域による相違を示した。近縁種による交雑により従来の固有種集団が過去30年に縮小化し、今後消滅していく将来予測にも言及した重要な論文である。

8. Tomoe Hikosaka-Katayama, Kanae Koike, Hiroshi Yamashita, Akira Hikosaka, and Kazuhiko Koike

Mechanisms of Maternal Inheritance of Dinoflagellate Symbionts in the Acoelomorph Worm *Waminoa litus*

29: 559-567

2種の渦鞭毛藻と共生する無腸動物 *Waminoa litus* について、共生藻の卵への垂直伝播過程を組織学的に詳細に記載した論文である。無腸動物という系統進化的に興味深い生物を継続的に飼育維持しておこなった本研究は、左右相称動物では共生渦鞭毛藻の垂直伝播がきわめて例外的なこともあり、貴重な生物学的知見を提示するものである。

・日本動物学会女性研究者奨励 OM 賞

安定した身分で研究を続けることが困難であるが、強い意志と高い志を持って研究に意欲的に取り組もうとする会員を、学会賞等選考委員会による審査を経て、理事会の審議により決定した。

1. 湯山 郁子（静岡大学創造科学技術大学院・学術研究員）

「共生藻の違いがサンゴのストレス耐性に与える影響」

2. 倉林 麻貴（理化学研究所発生・再生科学総合センター・研究員（期限付））

「カタユレイボヤにおける生殖細胞分化関連遺伝子の機能解析」

・成茂動物科学賞基金奨励賞

動物学の全分野でユニークな研究を展開する会員を振興賞の候補者とする。会長及び副会長2名と会長指名による2名の委員で選考し、理事会の審議により決定した。

浜中 良隆（北海道大学大学院生命科学院行動知能学講座）

「ペプチド作動性ニューロンの分化を支配する遺伝子 *dimm* の形態学的機能解析」

・若手研究者国際会議出席補助金（江上基金・川口基金）

4月から9月（江上基金対象）および10月から3月（川口基金対象）に開催される海外国際会議に出席する若手研究者を対象に、渡航費を補助する。学会賞等選考委員会による審査を経て、理事会の審議により決定した。

江上基金 野殿 英恵（慶應義塾大学理工学研究科基礎理工学専攻発生・生殖生物学研究室）

依藤実樹子（琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底研究室）

川口基金 該当者なし

・動物学教育賞

活発な啓蒙活動等により動物学の社会への普及に著しく貢献した個人または団体とし、本学会の会員・非会員を問わない。国籍も問わない。理事で構成する委員会で審議し、理事会の審議により以下のように決定した。（公益 1）

矢島 稔（ぐんま昆虫の森園長）

7. 動物学の普及活動、生物科学学会連合による生物学の連携、協調活動

国際生物学賞、国際生物学オリンピックの推進を図り、支援を行う。また、生物科学学会連合活動を生物系学会と連携して推進する。（公益 1）

8. 委員会の活動

（広報委員会）

- ホームページにより学会内外への広報活動を行った。
- メールマガジンにより、会員向け情報の提供を行った。
- 学会外への広報のためパンフレットを作成した。

（図書委員会）

出版・図書委員会メンバー：

高宗和史（熊本大学大学院自然科学研究科）

柁原 宏（北海道大学理学部生物科学科）

小林 一也（弘前大学農学生命科学部生物学科）

竹内 秀明（東京大学大学院理学系研究科生命科学専攻）

成瀬 清（基礎生物学研究所進化多様性生物学領域バイオリソース研究室）

本川 雅治（京都大学総合博物館）

佐藤 明子（広島大学大学院総合科学研究科）

吉国 通庸（九州大学農学研究院資源生物科学部門アクアフィールド科学部門）

1. 検討した課題：

丸善から動物学百科事典を出版することについて

1) 丸善出版株式会社企画・編集部 小林秀一郎氏からの「動物学の百科事典」企画内容説明

全員参加が難しかったので、3回に分けて全員が企画内容の説明を受けた。

一回目：2013年9月27日 岡山市民会館 201号室

参加者：柁原宏、小林一也、佐藤明子、高宗和史

2回目：2014年1月29日 Web会議

参加者：本川雅治、小林一也、佐藤明子、高宗和史

3回目：2014年2月18日 Web会議

参加者：竹内秀明、成瀬清、吉国通庸、高宗和史

2) 丸善からの動物学百科事典出版について審議

日時と会議形態：2014年3月11日 Web会議

参加者：柁原、小林、竹内、成瀬、佐藤、高宗

欠席：本川（出張）、吉国

議題：

I. 出版する方向で検討するか否か

生物学事典などの多くの辞典が既出版されている。また、近年では Wikipedia などネット上で情報を検索する手段が充実している。そのため、当初は新たに辞典を出版することに否定的な意見が多かった。

2013年度動物学会期間中、およびハングアウトを用いた Web 会議で丸善の小林氏に出版のコンセプトを説明してもらったところ、従来の辞典や Wikipedia のような単語の説明のための辞典ではなく、1つの内容を2頁もしくは4頁で最新の情報なども含めて説明する中項目の形態をとることであった。そのため、読み物として活用できること、各項目を体系的に並べることにより関連する情報も入手しやすく、全体的に把握することができる利点があるとのことであった。計画としては300から400の項目を提供するとしており、動物学全体を網羅することはできないが、できるだけ多くの動物種を紹介することにより、動物の多様性と面白さを紹介できるのではないかという意見があった。図書委員会としては、出版する方向で検討しても良いのではないかという結論に至った。

II. 編集委員会の構成について

図書委員会としては、編集委員長として学会会長、編集委員会顧問として「21世紀の動物科学」を編集された小泉先生を推薦し、理事会に諮ることになった。この案が了承されれば、編集委員長、編集委員会顧問、および図書委員会で編集幹事を人選し理事会に諮るといった手順を進めることを理事会に提案することになった。

10月30日：Springerからのシリーズ書籍出版に関する契約。

12月27日 滋野先生から Book Proposal 提出。本のタイトル：Design by Brain Evolution-From single cell origins to higher cognitive function

12月27日～1月10日：委員会による査読。全員問題ないと判断。

1月15日～1月21日：理事会による査読。提案があったが、基本的に了承。

1月22日：滋野先生から Springer へ Book Proposal 提出

3月4日：滋野先生から提案された Book Proposal が Springer 社内で承認。Volume Editor と Springer との契約開始

その他の Volume については現在 Proposal 作成中

（男女共同参画連絡会）

・2013年10月まで（2012年10月から）、第11期男女共同参画学協会連絡会事務局として運営を担当し、運営委員会の開催および2013年10月7日同連絡会シンポジウムの企画・運営を行った。

・上記シンポジウムにおいて、委員会活動をポスター発表と資料集掲載で報告した。

・日本動物学会第84回大会（9月26日～28日、岡山大学）において、9月26日に男女共同参画懇談会「動物学会員の多様なワークライフバランスの実現を目指して ー第3回大規模アンケート：科学技術系専門職の男女共同参画実態調査報告より課題と方策を考えるー」を開催し、100名以上の参加者があった。

・上記大会で求職表示を活用した求人求職活動を行った。

・上記大会で第6期委員会を開催し、今後の活動計画について話し合った。

・キャリアパス小委員会を将来計画委員会との合同で設置することとなった。詳細は下記将来計画委員会の項に記載している。

（将来計画委員会）

○将来計画委員会メンバー（敬称略）

増田隆一（北海道大）、渡辺明彦（山形大）、和田洋（筑波大）、矢澤隆志（福井大）、古屋秀隆（大阪大）、椋田崇夫（鳥取大）、守田昌哉（琉球大）、山下正兼（北海道大学・担当理事）

○開催形態とスケジュール

基本的にはメール会議とし、二ヶ月に1回、月末に定期的開催。学会開催時には通常会議を開催。平成24年11月開催の会議を第1回とし、通算回数を会議名とする。

○本年度の委員会開催状況と議論内容

第5回会議（平成25年7月最終週）

前年度からの検討課題である「動物学会の国際化」に関する将来計画委員会での議論を踏まえ、国際交流委員会（稲葉理事担当）と合同で議論し、「大会の完全英語化に向けた方策とそれらの実施時期」に関する提言（大会英語化提言.pdf）を理事会に提出した。

第6回会議（平成25年9月27日（金）12:00～13:00 岡山市民会館 第302会議室）

将来計画委員会と国際交流委員会の委員の顔合わせを主目的とし、各委員の専門分野や研究内容の紹介を行った。今後、委員間での共同研究の可能性について、検討を進めることになった。

阿形会長から将来計画委員会に検討依頼があった、1) グローバル化をどのように進めていくのか、2) 若手育成をどのように進めていくのか、3) 新規会員のリクルート（生態関連、哺乳類関連など）のうち、グローバル化については一応の区切りをつけ、次回からは2と3について議論を開始すること、特に3については、次回大会での関連集会やシンポジウムの開催をめざし、優先的に議論することを確認した。

第7回会議（平成25年11月最終週）

新規会員のリクルート(生態関連、哺乳類関連など)について議論した。その結果、次回の動物学会本大会(仙台大会)で哺乳類関連のシンポジウムを開くことになった。北海道大学の増田先生を取りまとめとするワーキンググループを設置し、具体的な検討作業に入った。増田先生、渡辺先生、古屋先生、椋田先生の将来計画委員会のメンバーに加えて、北海道大学の鈴木仁先生、大館智志先生、帯広畜産大学の押田龍夫先生、山形大学の玉手英利先生にもワーキンググループに参加いただいた。

第8回会議(平成26年4月第1週)

第8回会議は平成26年1月最終週を予定していたが、3月末を目処に、仙台大会における哺乳類学関連のシンポジウム企画がワーキンググループによって進められていることから、ワーキンググループから企画提案があった段階で第8回委員会を開催し、企画案を議論・了承した後、将来計画委員会として正式に本部(阿形会長)に提案することになった。

3月末にワーキンググループによる企画案が確定したので内容を審議した。使用予定会場の収容人数が100名では少ないのではないかと意見が出され、180名収容の会場に変更した(哺乳類学シンポ企画書.pdf, 哺乳類学シンポ要旨.pdf)。

第9回会議(平成26年5月最終週)

学部学生に焦点を当てて意見交換をした。具体的には、1) 教員に対する学部生の割合は適当か、2) 学部生が志望する学問領域に教員スタッフの専門分野は対応しているか、3) 学部生に対する特別なケアをしている場合はその内容、4) 学部生の大学院への進学率、5) 自大学院(あるいは他大学院)への進学を促す特別な方策を講じている場合は、その内容、6) その他、学部生に関して考慮すべき点(例えば、a) グローバル化と関連して英語授業の増加の是非や対応について、b) カリキュラムの国際通用性と関連して「生物学」の講義での教科書使用について、c) 学際的能力を育成する目的での生物科学科の学生に対する他学科開講科目の履修指導、d) そもそも学部生に教える生物学はどうあるべきか、など)、について、各委員がそれぞれの大学の状況を報告した(学部教育現状まとめ.pdf)。

○キャリアパス小委員会の設置

平成26年6月7日開催の理事会において、男女共同参画委員会担当の窪川理事から、同委員会と将来計画委員会の合同で「キャリアパス小委員会」を設置することが諮られた(添付書類参照)。将来計画委員会での検討事項に「若手人材の育成」が挙げられており、キャリアパス問題は若手育成と直結するため、提案を了承した(本件は理事会としても承認した)。具体的には、生物科学学会連合の動物学会代表委員・近藤真理子氏、男女共同参画委員会から2名、将来計画委員会から2名の計5名で小委員会を形成する(男女共同参画委員会担当理事と将来計画委員会担当理事はオブザーバーとして参加)。

○関連ファイル

- 1) 大会英語化提言.pdf
- 2) 哺乳類学シンポ企画書.pdf
- 3) 哺乳類学シンポ要旨.pdf
- 4) 学部教育現状まとめ.pdf
- 5) キャリアパス小委員会.pdf

(教育委員会)

1. 動物学 Q&A

4 題の質問が寄せられた。担当者も勉強になるほど、思いがけない鋭い質問があった。動物学会教育委員会に於いて、質問内容が動物学 Q&A に掲載されるにふさわしいか審議し、適切と判断した質問について、動物学会教育委員会で回答者を選出し、回答を依頼した。質問内容によっては、非会員にも回答を依頼した。依頼したすべての会員、非会員から、適切な回答が得られた。回答内容についても、動物学会教育委員会で審議し、問題がないことを確認した後に、広報担当理事の富岡先生に依頼して動物学会ホームページに掲載していただいた。今後も、質問が増えるよう、各支部で高校の先生方に呼びかけを行う。

2. 北海道支部

高校生による研究発表

2013 (平成 25) 年 8 月 24 日 (土) に開催された日本動物学会北海道支部において、高校生による研究成果の発表が行われた (ポスター発表 3 題)。

[P-1] *○谷中陽祐 (札幌啓成高校 理数科 科学部 3 年), ○渡邊真記 (同左 2 年) 植木玲一 (札幌啓成高校教諭), 堀繁久 (北海道開拓記念館学芸員)

「早春の野幌森林公園におけるエゾサンショウウオの産卵状況とアライグマによる被食状況 (第 2 報)

[P-2] *○関口絢子 (北海道札幌旭丘高等学校生物部)

「トンボで診断します! 湿地の健康」

[P-3] *○関口征宏 ○宇久村三世 (北海道札幌旭丘高等学校生物部)

「トンボどこからどこへ? ~マーキングからわかるトンボの移動~」

各発表には、それぞれ大学教員の会員が指定ディスカッサントとして対応し、一般参加者とともに質疑に参加した。そのコメントにもとづいて、各発表が優秀発表賞として顕彰された。

3. 東北支部

中高校生による科学研究発表

7 月 12-13 日に開催された日本動物学会東北支部大会において、高校生 (中学生を含む) による研究成果発表が行われた (口頭発表 10 題)

7 月 12 日 (土) 午後

発表 8 分・討議 2 分

座長: 梶原昌五、渡辺修二

01 ヒトデの反転行動における疲労と利き腕に関する研究

下館力、○我満宏祐、○木立宙之介 (青森市立古川中学校)

02 両生類におけるメラトニンとチロキシンの関係 ~体色変化の観点から~

○成田美優 (青森県立弘前南高等学校)

03 メキシコサンショウウオ (*Ambystoma mexicanum*) の産卵条件について

鏡真奈、高橋桜、成田柚女、○岡部真琴、○志齊真優、朝香雪音、下山夏未 (山形県立山形西高等学校)

04 光ストレスのプラナリアの再生への影響 (中間報告)

齊藤幸四郎、○伊藤雅也、齊藤翔太、猪木優哉、本田蒼、河井祐樹

(盛岡市立高等学校)

05 プラナリアの種類と分布に関する調査研究 ～岩手県馬淵川水系において～

○佐々木啓太(岩手県立福岡高等学校)

06 茶屋沼の微小生物 ～原発事故後の環境と微小生物の個体数について～

○土田真平、天野志緒理、大沼卓登、立花航(福島成蹊高等学校)

07 ミカヅキモによる汚染水から放射性物質の除去の可能性について

○佐久間美華、土田真平、石井知希、佐久間巧、大津祐太(福島成蹊高等学校)

08 シャジクモ, ミルプラスチックモの保護活動と除染への応用

○天野志緒理、佐久間美華、菅野由真、村井凌、吉田拓未(福島成蹊高等学校)

09 発光細菌の培養条件と光り方の変化

○青木雄一, ○伊藤青空, ○佐々木隼(仙台第三高等学校)

10 バクテリオファージΦNIT1 に対する納豆菌の感受性

○鎌田睦大(仙台第三高等学校)

親子で楽しむ動物学 14 : みえるしくみ～基礎から臨床応用の可能性まで～

7月13日(日)午後

一般向け講演及び体験の2部構成

講演 富田浩史先生(岩手大学)「みえるしくみ～基礎から臨床応用の可能性まで～」

体験教室 若林篤先生(岩手大学)「錯視を体験できるエイムズの部屋をつくってみよう」

講演には、50名近くの親子、60名以上の学会関係者や学生の参加があった。

体験教室では一般から応募していただいた親子(主に小学生)に対してペーパークラフトを作ってもらい、錯視の一つである「エイムズの部屋」という現象を体験した。

日本動物学科東北支部 動物学フォトコンテスト

動物学を活気溢れるものにするのと、多くの人たちに動物学を身近に感じてもらうことを目的として、「動物学フォトコンテスト」を開催した。応募者は、TIFFもしくはJPGファイルで動物もしくは動物学に関連する写真に、簡単な解説文をつけてメールで応募した。

応募期間：平成26年5月1日-6月20日

応募資格：東北6県に在住、または通勤、通学している方々(日本動物学会会員に限定しない)

ホームページで応募を呼び掛けるとともに、東北支部会員を通じて、大学、高校、中学等へのフォトコンテスト開催連絡を行なった。

最優秀賞1名、優秀賞3名を選出し、入賞4名の写真は、東北支部ホームページに掲載した、また、入賞写真は木製パネルを作成し、平成26年度日本動物学会東北支部大会で展示した後、賞状とともに各入賞者へ贈呈した。

4. 関東支部

(1) 平成25年度 関東支部会主催公開講演会

「多様な生命現象の分子・遺伝子基盤」

～ 生物教科書の新たなトピックについて研究者が語る ～

【日 時】 平成 25 年 8 月 31 日 (土) 15 時～19 時
【会 場】 東京大学理学部 2 号館講堂 (東京都文京区 7-3-1)
【参加者】 約 70 名

プログラム

はじめに 竹内秀明 (東京大・院理)

- ・新学習指導要領により高校生物はどのように変わるか？

嶋田正和 (東京大・院総合文化)

- ・ミツバチの尻振りダンスを司る脳の分子神経的基盤

久保健雄 (東京大・院理)

- ・昆虫から探る免疫の仕組み～宿主と病原体の攻防

矢野 環 (東北大・院薬)

- ・軟体動物を用いた神経可塑性研究

松尾亮太 (福岡女子大・国際文理)

(2) 第 66 回関東支部大会

【日 時】 2014 年 3 月 15 日 (土)
【会 場】 東京大学大気海洋研究所・講堂
(千葉県柏市柏の葉 5-1-5 東京大学柏キャンパス内)
【参加者】 238 名 (うち、中高生 68 名)

- ・公開シンポジウム「地球温暖化で変わる？ 海洋生物の住処と暮らし」

1. 川幡穂高 (東京大学大気海洋研究所・海洋底テクトニクス分野)
2. 狩野泰則 (東京大学大気海洋研究所・底生生物分野)
3. 木村伸吾 (東京大学新領域創成科学研究科・自然環境学専攻)

- ・中高生ポスター

HP-1 マウスの輪回し活動における光環境の影響

○上坂真裕子、矢野更紗

帝京大学高等学校コンピュータ科学部

HP-2 食虫植物タヌキモと細菌の共生関係～光障害に対処する術～

○工藤勝裕、佐々木聖也

埼玉県立川口北高等学校 生物部

HP-3 イソギンチャクの生き抜く姿～白化という選択～

稲葉涼介

埼玉県立川口北高等学校 生物部

HP-4 ユキノシタにおけるアントシアンの存在意義Ⅱ

○佐古志織、岡本洋輝

埼玉県立川口北高等学校 生物部

HP-5 マウスの涙~光環境がマウスに与える影響~

○井上由惟、○辻 梨奈

埼玉県立川口北高等学校 生物部

HP-6 クマムシの tun 状態における環境ストレス耐性

○若林果菜子、海老沢聡美

茨城県立水戸第二高等学校生物同好会

HP-7 野生の花から分離した酵母の性質

○山本 真梨子、磯崎 えりか、郡司 美里、 田中 葉奈

茨城県立水戸第二高等学校 2年SSクラス

HP-8 マウスでのインスリン分泌量について

池田ひかり

横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校

HP-9 簡単にできるビオトープ~タフブネを使った自然再生の試み

○佐川裕次郎、○梅田千雅、○田村響子、○瀧澤直稀、○高内さつき、○中山友梨子、○石川遼

千葉県立国府台高等学校理科研究部

HP-10 海藻に共生するバクテリア由来の酵素に関する研究

○古賀 樹、○浦田瑞生、○大澤銀河、○西方 優

東京学芸大学附属高等学校

HP-11 根粒菌の性質とその利用に関する研究

小倉永里

千葉市立稲毛高等学校 1年

HP-12 マイクロバブル水・ナノバブル水の物性と生物への影響考察

○黒田充樹、佐々木結花、蔭山杏実

東京都立多摩科学技術高等学校 科学研究部 化学班

HP-13 ミドリムシの遊泳とユーグレナ運動の関係性

○成田みのり、立脇悠太、野中強也、山崎晴菜（引率教員：山田裕二）

千葉県立柏高等学校 理数科2年

HP-14 ニワトリ胚の小脳の観察

浅葉祐貴

横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 2年生

HP-15 葛川のオオフサモが形成する生態系

○星加泰宏、○宮澤まどか、○平石恵一、○伊東桂一、○可知寛也、○志村映実、○猪刈陽平、○関山恵祐

向上高等学校生物部

HP-16 淡水棲小型巻貝コモチカワツボ染色体の倍数性解明

○振原悠人、○酒井勇氣、○若井 仁、○服部新太郎、○佐藤祐香、○田中哲生、○神崎泰斗、○曾根大樹

向上高等学校生物部

HP-17 向上高校生物部 10年間の歩み ―日本動物学会への感謝をこめて―

○神田旭、○蓑島智代、○小菅桃子、○井出佳宏、○高橋 瞬、○尾島隆大、○西島航輝、○綿貫陽太

向上高等学校生物部

HP-18 植物への物理学的アプローチ

池口弘太郎

東京学芸大学附属高等学校

HP-19 海産珪藻の増殖に対する海水濃度の影響

○伝田直晃 澄川智紀

埼玉県立松山高校 生物部

HP-20 トランスポゾン Tol1 が存在しない出眼アルビノメダカについて

○田ヶ谷悠稀、松本賢吾

埼玉県立松山高等学校生物部

HP-21 プラナリアの光走性

金 理志

市川学園市川高等学校

HP-22 テントウムシの累代飼育

○河本拓也、○鳥海修司、○和田真太郎

市川学園市川高等学校

HP-23 ゴミグモの生態

○西野元一郎、○那須悠司

市川学園市川高等学校

JHP-1 南極の太陽の下で野菜を作ろう！

○森達也 1、○葛西洋州 1、○竹重裕哉 1、○阪本匠 1、中里直 1、石川和輝 1、鈴木良直 1、森達也 1、葛西洋州 1、竹重裕哉 1、阪本匠 1、中里直 1、石川和輝 2、鈴木良直 3

1 東京都板橋区立高島第一中学校、2 東京都板橋区立高島第二中学校、3 昭和鉄道高等学校

JHP-2 室内飼育におけるバフンウニの光に対する行動

小川博久

千葉県君津市立君津中学校

JHP-3 里山におけるサンショウウオ・ホタルの生態と生息環境

○渡邊和希、廣田翔耶、村上晃汰、新島 武、白井爽観

千葉県君津市立君津中学校

JHP-4 ヘイケボタルの幼虫は暗いのが好き？ー② ～壁面の暗さ～

○新井 晴 1、○有川英透 1、○有川隼翔 1、○植田高弘 1、○植田悠椰 1、○大瀬綾香 1、○小田桐明紀 1、○小山明秀 1、○小山大和 1、○塩塚理央 1、○高田真帆 1、○高田喜光 1、○野澤由樹 1、○長谷川眞央 1、○福富 照 1、○福富 実 1、○星野佑奈 1、○山崎 明 1、○山崎絵理 1 (指導・担当：吉村和也 1, 2、小中澤実砂 1, 2、池田夏実 1, 2、堀田勤一郎 1, 3、高橋哲夫 1, 3)

北区環境大学・ホタル環境講座 1、お茶の水女子大・サイエンス&エデュケーションセンター2、東京都北区・環境課 3

5. 中部支部

① 支部大会

日時：平成 24 年 11 月 17 日（土）－18 日（日）

会場：松本市浅間温泉みやま荘

高校生口演発表 2 題

高校生ポスター発表 2 題

公開フォーラム 「生物学のこれから」

講演 1. 島田正和 氏 「新学習指導要領による生態・進化教育の新しい流れ」

講演 2. 斎藤淳一 氏 「国際生物学オリンピックと生物教育」

公開シンポジウム 「極限に生きる動物たち」

講演 1. 鈴木忠 氏 「怪物の生物学：クマムシの不思議」

講演 2. 東城幸治 氏 「砂漠に生きる新規昆虫目・カカトアルキの謎」

講演 3. 藤原義弘 氏 「海底に沈んだ鯨が支える生態系」

講演 4. 宮崎淳一 氏 「極限に生きる深海生物群集の進化」

参加者：230 名

6. 近畿支部

1) 「知と学びのサミット：個性が育むサイエンス—ノーベル賞受賞者が語る」後援

日時 2013年9月23日(月) 14:00~16:00

場所 ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター(大阪市北区大深町3-1 グラ
ンフロント大阪)

支部ブースにて動物学Q&Aの宣伝を行った(豊田会員)

2) 公開講演会

日時 2013年11月16日(土) 13:00~16:00

場所 京都産業大学むすびわざ館(京都市下京区中堂寺命婦町1-100)

参加者数 81名

動物の形作りの謎 八杉貞雄

生物はどうやって失った形を再生するのか 阿形清和

動物の背と腹ができるしくみ 武田洋幸

形作りから進化の謎に迫る—鳥はほんとうに恐竜なのだろうか— 田村宏治

来場者に動物学Q&Aの宣伝を行った(豊田会員)

7. 中四国支部

平成26年度の活動

2014年5月10日(土)と11日(日)に、岡山理科大学において平成26年度の中国四国地区生物系三学会合同大会(徳島大会)が開催され、動物分野では10日に高校生によるポスター発表12題の講演があった。審査員、大会事務局での協議の結果、以下の発表に対して最優秀賞1件と優秀賞3件を授与することを決め、賞状を授与した。

最優秀賞 ○発表者、*指導教員

HZP-07 アカハライモリのクローン作成

○木村佳奈子、*秋山繁治(清心女子高等学校)

優秀賞

HZP-06 受精卵から飼育したオオイタサンショウウオで、室内での産卵行動の観察に成功

○伊藤頌子、○田中美世、*秋山繁治(清心女子高等学校)

HZP-11 円の軌跡と体格等の関係を探る

○清水友太、西村宗一郎、*松本憲幸(鳥取県立鳥取東高等学校)

HZP-12 ミミズの交替性転向反応

○岡垣将太郎、○衣笠隼人、○桑野洸人、○小谷史浩、○田中克樹、○堂本大喜、○徳田宏貴、○難波諒、○長谷拓実、○森本直大、*田中沙耶花(鳥取県立鳥取工業高等学校)

その他の発表

HZP-01 ミドリムシの光走性

○奥田希実, ○寺坂安奈, *山本隆史 (岡山県立津山高等学校)

HZP-02 ナミウズムシ (*Dugesia japonica*) の水質耐性

○金谷啓之, ○藤村志穂, *児玉伊智郎 (山口県立山口高等学校)

HZP-03 トビイロケアリの空間認識

○岡本大輝, ○野口 蓮, ○井口比那子, ○藤原遥菜, *房野和広 (岡山県立岡山一宮高等学校)

HZP-04 エサのpHとキイロシヨウジョウバエの性比との関係

○大島義智, ○西睦貴, ○柚木隆志, ○渡邊俊基, *大嶋成幸 (岡山県立玉島高等学校)

HZP-05 マングローブ干潟における, 右と左にこだわったカニの行動

○宇野美咲, ○小山真生, ○三宅千花, ○笠原颯太, ○竹中 幹, ○林 晴樹, ○福島佳祐,
*進藤明彦 (岡山県立玉島高等学校)

HZP-08 岡山市におけるキマダラカメムシの生態調査

○内西友貴, ○榎本祐介, ○櫃本有希雄, ○藤原熙士, *中田由紀子 (岡山理科大学附属
高等学校)

HZP-09 ニホンカナヘビ (*Takydromus tachydromoides*) の尾の再生に関する研究

○赤木美帆, ○江口奈穂, ○小坂さより, ○高橋千尋, ○中山翔太, ○宮本悠加, *野田
利之 (岡山理科大学附属高等学校)

HZP-10 イヌのメタボリックシンドロームを解明する

○武田怜奈, ○藤原証之, ○山木裕介, *小野敏夫 (岡山理科大学附属高等学校)

8. 九州支部

[1]日本動物学会九州支部会 (九州沖縄植物学会、日本生態学会九州地区会、沖縄生物学会
と共催) 於 5/24-25 琉球大学

会員発表の他に高校生発表6題、小学生発表4題がありました。

参加者

高校生/高等専門学校生: 18名 (発表者16名)

高校教員: 6名

高等専門学校教員: 2名

小学生: 4名 (発表者4名)

高校生発表者・演題

1. 稲福凜(辺土名高校 2 年)・* 稲垣雄亮(辺土名高校 2 年)・* 仲村勇人(辺土名高校 2 年)・* 外間歩(辺土名高校 2 年)・* 金城実希(辺土名高校 1 年). 田嘉里川におけるオキナワヒゲナガカワトビケラの生活史
2. * 新里美咲(辺土名高校 3 年)・* 金城幸輝(辺土名高校 2 年)・* 町田宗作(辺土名高校 2 年). オキナワオオミズスマシについて (Ⅲ) —産卵・孵化・個体数の季節変動—
3. * 北村育海(名護高校 1 年). 沖縄本島西屋部川の水生生物調査 ～甲殻類の抱卵期と成長を追う～
4. * 古波津千百合・喜納星・田邊俊朗(沖高専・生資工). 沖縄県各地からの土壌放線菌の単離とその抗菌性
5. 宮平拓実・与那嶺琉太・宮平真子・大城穂乃香(北山高). シリケンイモリにおける水場の利用 ～ 沖縄島北部 2 地点の比較
6. 山里盛也(浦添高). 発酵の研究～イースト菌の働き～

小学生発表者・演題

1. 与那嶺聡太(座間味村立阿嘉小). ケラマジカの「好きな食べもの」について
2. * 金城奈穂(座間味村立阿嘉小). ケラマジカの「住みか」について
3. * 川井琉丸(座間味村立阿嘉小). ケラマジカの「行動」について
4. 当間大聖(座間味村立阿嘉小). ケラマジカの「フン」について

(研究協力教員の発表)

遠藤晃・南九州大学人間発達学部. 野生生物保全のための「持続可能な発展のための教育 (ESD) ～座間味村立慶留間小における児童によるケラマジカ研究の 10 年

[2] 日本生物教育会全国大会福岡大会 (日本生物教育会、福岡県高等学校生物部会主催)
於 8/5-8/7 西南学院大学 (福岡市)

大会テーマ: 「もの」への理解から始まる生物教育

研究協議会統一テーマ: 新課程生物基礎・生物をどう教えるか～教科書の内容を踏まえて
上記協議会の第 2 分科会 (発生分野) の講師の小早川義尚氏 (九州大学) と第 3 分科会 (動物行動学分野) の講師の藍 浩之氏 (福岡大学) をお願いして講演の最後に動物学会 Q&A の紹介して頂いた。参加者数は両分科会とも 40~50 名であった。

(国際交流委員会)

1. 国際交流シンポジウムの開催について

若手を中心に学会の国際化、国際交流を促進する目的で年に 1 回、国際交流シンポジウムを開催することにした。第 1 回は、平成 26 年の仙台大会直後に東北大学大学院生命科学科附属浅虫海洋生物学教育研究センターにて 3 日間の日程で行うこととした。本シンポジウム期間中の公用語は英語とする。講師として、フランスビルフランシェ臨海実験所 CNRS パリ 6 大学名誉教授のクリスチャン・サルデー博士を招聘することとした。留学生や若手の学会員を中心に広く参加者を募り、国際交流を図ることとした。

2. 国際動物学会における国際交流委員会主体の企画について

平成28年9月に開催予定の国際動物学会にて、準備委員会と連携して国際化、若手国際交流を目的としたシンポジウムの企画を行うこととした。

9. 動物学の普及活動、生物科学学会連合による生物学の連携、協調活動

国際生物学賞、国際生物学オリンピックの推進を図り、支援を行う。そのため、JSPS, 国際生物学オリンピック日本委員会に各10万円の寄附を行った。また、生物科学学会連合活動を生物系学会と連携して推進した。

10. 支部による活動

・北海道支部

1. 2013（平成25）年度日本動物学会北海道支部大会

8月24日（土）9:20～17:30（一般発表、特別講演、高校生による特別発表、総会）

北海道教育大学札幌校講義棟3階

一般発表：20件 特別講演：1件 特別発表：3件

2. 2013（平成25）年度日本動物学会北海道支部役員会

8月24日（土）12:30～13:30

北海道教育大学札幌校事務局2階第4会議室

出席：23名 欠席：3名

報告・審議事項

1) 庶務報告

2) 会計報告

3) 2013（平成25）年度事業計画および予算案

4) 2014（平成26）年度北海道支部大会

5) 庶務・会計の引継

6) ZS誌の商業出版への移行とオープンアクセス版立ち上げの可能性

3. 北海道支部講演会

1) 第548回支部講演会

日時：2013年8月7日（水）16:00～17:30

場所：北海道大学理学部5号館2階5-205室

演題：魚類の卵成熟・排卵誘導機構-ステロイドホルモン作用の研究モデル

講師：徳元俊伸（静岡大学・創造科学技術大学院・バイオサイエンス専攻）

2) 第549回支部講演会

日時：2013年11月29日（金）17:30～19:00

場所：旭川医科大学総合研究棟1階小講堂

演題：精子におけるCO₂感受性の分子機構とその進化的意義

講師：広橋教貴（島根大学隠岐臨海実験所・准教授）

3) 第550回支部講演会

日時：2014年1月14日(火) 15:00～16:30

場所：北海道大学理学部5号館5-813室

演題：ヒグマとホッキョクグマの進化史に関する集団遺伝学的解析

講師：中込滋樹(統計数理研究所・外来研究員, シカゴ大・ポスドク)

参加者：17名

4) 第551回支部講演会

日時：2014年2月24日(月) 17:30～19:00

場所：北海道大学理学部5号館5-407室

演題：小鳥のさえずり学習の神経機構：大脳基底核経路と強化学習モデル

講師：小島哲(Center for Integrative Neuroscience, University of California, San Diego)

・東北支部

①平成25年度日本動物学会東北支部大会

平成25年7月20日(土) 9:00～18:00(一般講演、総会、高校生による研究発表)

秋田大学手形キャンパス・大学会館クレール

一般口頭発表：22件

高校生口頭発表：10件、高校生ポスター発表：3件

②平成25年度日本動物学会東北支部役員会

平成25年7月20日(土) 12:30～13:00

秋田大学手形キャンパス・大学会館クレール

出席者：田村支部長、出口理事、小林委員(青森)、松浦委員(岩手)、
石井委員(秋田)、黒谷委員(山形)、松岡委員(福島)、西野会計幹事、
武智広報幹事、小金澤庶務幹事

<議題>

- 1) 平成24年度決算案・平成25年度予算案(会計)
- 2) 次期支部大会開催地について(庶務)
- 3) 支部大会開催について(庶務)
- 4) 「親子で楽しむ動物学」開催のための指針(庶務)
- 5) 写真コンテスト開催について(広報)
- 6) 支部規約改定について(庶務)
- 7) その他

③平成25年度日本動物学会東北支部総会

平成25年7月20日(土) 15:15～15:45

秋田大学手形キャンパス・大学会館クレール

<報告事項>

- 1) 理事会報告

- 2) 日本動物学会第 85 回大会（仙台）について
- 3) 庶務報告
- 4) 会計報告
- 5) 写真コンテスト開催について（広報）
- 6) その他

<審議事項>

- 1) 次期支部大会開催地について
- 2) 支部規約改定について
- 3) その他

④公益社団法人化に伴う支部規約の改定

役員会での議論、支部会員への事前周知・意見聴取をへて、平成 25 年 7 月 20 日（土）開催の総会にて規約を改定し「公益社団法人日本動物学会東北支部規約」とした。

・ 関東支部

(1) 平成 25 年度 関東支部会主催公開講演会

「多様な生命現象の分子・遺伝子基盤」

～ 生物教科書の新たなトピックについて研究者が語る ～

【日 時】 平成 25 年 8 月 31 日（土） 15 時～19 時

【会 場】 東京大学理学部 2 号館講堂（東京都文京区 7-3-1）

【参加者】 約 70 名

プログラム

15 時 00 分～ はじめに 竹内秀明（東京大・院理）

15 時 10 分～ 新学習指導要領により高校生物はどのように変わるか？

嶋田正和（東京大・院総合文化）

15 時 30 分～ ミツバチの尻振りダンスを司る脳の分子神経的基盤

久保健雄（東京大・院理）

（休憩）

16 時 40 分～ 昆虫から探る免疫の仕組み～宿主と病原体の攻防

矢野 環（東北大・院薬）

17 時 40 分～ 軟体動物を用いた神経可塑性研究

松尾亮太（福岡女子大・国際文理）

18 時 40 分～ 総合討論

19 時 00 分 閉会

(2) 第 66 回関東支部大会および関東支部総会

【日 時】 2014 年 3 月 15 日（土）

【会 場】 東京大学大気海洋研究所

（千葉県柏市柏の葉 5-1-5 東京大学柏キャンパス内）

【大会長】 竹井 祥郎 会員（東京大学大気海洋研究所）

【演題数】 一般演題（ポスター）：54 演題 中高生ポスター：26 演題

【参加者】 238 名（うち、中高生 68 名）

プログラム：

10:00 受付開始、ポスター掲示

10:30-12:15 公開シンポジウム(大気海洋研究所・講堂)

「地球温暖化で変わる？ 海洋生物の住処と暮らし」

1.川幡穂高（東京大学大気海洋研究所・海洋底テクトニクス分野）

2.狩野泰則（東京大学大気海洋研究所・底生生物分野）

3.木村伸吾（東京大学新領域創成科学研究科・自然環境学専攻）

12:30-13:00 総会(同上)

13:00-14:00 昼休み

14:00-16:30 ポスター発表(大気海洋研究所・ホール)

17:00- 懇親会(柏キャンパス内)

・中部支部

① 支部大会

日時：平成 24 年 11 月 17 日（土）－18 日（日）

会場：松本市浅間温泉みやま荘

一般口演・ポスター発表

演題数：口頭発表 25 題、

ポスター発表 25 題

高校生口演発表 2 題高校生ポスター発表 2 題

公開フォーラム 「生物学のこれから」

講演 1. 島田正和 氏 「新学習指導要領による生態・進化教育の新しい流れ」

講演 2. 斎藤淳一 氏 「国際生物学オリンピックと生物教育」

公開シンポジウム 「極限に生きる動物たち」

講演 1. 鈴木忠 氏 「怪物の生物学：クマムシの不思議」

講演 2. 東城幸治 氏 「砂漠に生きる新規昆虫目・カカトアルキの謎」

講演 3. 藤原義弘 氏 「海底に沈んだ鯨が支える生態系」

講演 4. 宮崎淳一 氏 「極限に生きる深海生物群集の進化」

生物アート展示・販売

アニマック生物アートサークル「生物部」

ハサミックワールド浅見雅信

参加者：230 名

・近畿支部

(1) 「知と学びのサミット：個性が育むサイエンス—ノーベル賞受賞者が語る」後援

日時 2013 年 9 月 23 日（月） 14:00～16:00

場所 ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター（大阪市北区大深町 3-1 グラ
ンフロント大阪）

講演・対談 下村 脩「緑色蛍光たんぱく質の発見一決してあきらめない」
益川敏英「夢をつかむ『好奇心』に迫る」
中村桂子
阿形清和

ブースにおいて動物学会近畿支部の活動を紹介した。

(2) 支部委員会報告

日時 2013年11月16日(土) 11:00~12:10

場所 京都産業大学むすびわざ館(京都市下京区中堂寺命婦町1-100)

1. 支部長報告・理事会報告
2. 2012年度(公益社団法人化後)会計報告
3. 2013年度会計中間報告

日時 2014年5月10日(土) 11:00~11:45

場所 兵庫県立大学新在家キャンパス(姫路市新在家本町1-1-12)

1. 支部長報告
2. 2013年度会計中間報告
3. 2014年度事業計画・予算案
4. 支部選挙

(3) 支部会報告

日時 2013年11月16日(土) 13:00~16:00

場所 京都産業大学むすびわざ館(京都市下京区中堂寺命婦町1-100)

参加者数 81名(うち会員 19名)

公開講演会

動物の形作りの謎 八杉貞雄

生物はどうやって失った形を再生するのか 阿形清和

動物の背と腹ができるしくみ 武田洋幸

形作りから進化の謎に迫るー鳥はほんとうに恐竜なのだろうかー 田村宏治

日時 2014年5月10日(土) 13:30~17:45

場所 兵庫県立大学新在家キャンパス(姫路市新在家本町1-1-12)

参加者数 29名(うち会員 16名)

1. 支部総会
2. 会員による研究発表

線虫 *C. elegans* の温度応答・適応における 3 量体 G タンパク質を介した情報伝達

○宇多美里・宇治澤知代・石割友博・木村真衣・太田茜・久原篤(甲南大・理工、統合ニューロバイオロジー研究所)

線虫 *C. elegans* の温度応答・適応の組織間ネットワーク

○園田悟・太田茜・田中沙季・久原篤(甲南大・理工)

世界各地の線虫 *C. elegans* の温度応答と記憶の多様性に関わる遺伝子

○岡畑美咲・古川翔子・五百蔵誠・高垣菜式・太田茜・久原篤（甲南大・理工）

線虫 *C. elegans* における温度応答の人工進化と新規変異体の解析

○木下ゆかり・太田茜・宇多美里・久原篤（甲南大・理工）

シリアカニクバエの成虫発育の完了時刻と羽化時刻

○西村晃爾・志賀向子（大阪市大・院理）

クロオオアリの働きアリにおける巣仲間識別に関与する体表炭化水素受容体の局在と機能解析にむけて

○竹市裕介¹・尾崎浩一²・北條賢¹・尾崎まみこ¹（¹ 神大・院理・生物、² 島大・生物資源・生物）

哺乳類 *NDRG1* のゼブラフィッシュ相同蛋白質の視細胞における機能解析

○瀧田真平¹・和田恭高^{1,2}・河村悟^{1,2}（¹ 阪大院・理・生物科学、² 阪大院・生命機能）

ゼブラフィッシュ初期胚の神経上皮にみられる特徴的な Ca^{2+} 濃度変化のイメージング

○岡本晋一・中川将司・八田公平（兵庫県立大学大学院・生命理学研究科・生命科学専攻）

ゼブラフィッシュにおけるマウスナー細胞を抑制する GABA 作動性神経の探索

○井上智裕・東毅・池永隆徳・八田公平（兵庫県立大学生命理学研究科・生体情報学 I 講座）

桿体・錐体視細胞の外節膜に発現している蛋白質の比較

○深川貴志¹・橘木修志^{1,2}・河村悟^{1,2}（¹ 大阪大学・大学院生命機能研究科、² 大阪大学・大学院理学研究科）

GcMAF (Gc-protein derived macrophage activating factor) レセプターの同定に向けて

○井上貴裕・石川真実・石井宏和・西方敬人（甲南大・FIRST）

3. 特別講演

オオサンショウウオを取り巻く環境

栃本武良（日本ハンザキ研究所）

・中国四国支部

① 支部大会

<中国四国支部第66回大会（中国四国地区生物系三学会合同大会）>

日時：平成26年5月10日（土）～11日（日）

会場：岡山理科大学

演題数：口頭発表 31題（動物11題、植物12題、生態8題）

ポスター発表 66題（動物33題、植物24題、生態9題）

公開講演会 「化石から見る動植物の世界」 講演3題

高校生ポスター発表 36題

参加者：三学会関係 164名（動物73名、植物58名、生態33名）

高校・一般 160名

② 県例会等

<山口大学理学部サイエンスワールド2013>

日時：平成 25 年 10 月 20 日（日）

場所：山口大学吉田キャンパス

内容：学生による科学体験企画を中心とした、地域住民への理工系の魅力発信。

（出展企画数：20 件、高校生ポスター発表 3 校 5 テーマ）

参加者：690 名

<高知県例会（第 106 回土佐生物学会）>

日時：平成 25 年 12 月 7 日（土） 9：30～17：35

会場：高知大学メディアの森 6 階メディアホール

講演数：6 題が日本動物学会会員

参加者：約 100 名

<シンポジウム 「湖山池の生物相・生態系の激変と汽水化事業の問題点」>

日時：平成 25 年 12 月 14 日（土） 13：25～16：20

会場：鳥取県立博物館 会議室

演題数：7 題

参加者：40 名

鳥取県生物学会との共催

<2013 年度愛媛県例会>

日時：平成 25 年 12 月 14 日（土） 13:00～15:00

場所：松山市文京町 2-5 愛媛大学理学部・共通ゼミ室（419-2）

講演数：5 題

参加者：25 名

③ 共催研究会

<生物・工学 接着・粘着連携研究会>

日時：平成 26 年 2 月 6 日（木） 13：00～17：40

場所：広島大学理学部 E 棟 E002 講義室（広島県東広島市）

演題：招待講演 4 題

参加：約 30 名

日本接着学会との共催

・九州支部

三学会合同鹿児島例会（同時開催:シンポジウム「奄美群島の生物多様性 4-海はつながっているか?-」）

日時：平成 25 年 7 月 13 日(土)

場所：鹿児島大学郡元キャンパス

演題，演者：

1. 種多様性と分布の空間構造～多様性が高いとはどういう状態か？～

山本智子（鹿児島大学水産学部）

2. エコトーンと生育環境の多様性が支える奄美群島の海産植物

寺田隆太（鹿児島大学水産学部）

3. 南西諸島における海岸性動物の生物地理：ヤドカリ類 vs 魚類

河井崇（琉球大学工学部）

4. 薩南諸島の魚類多様性-これまでの研究成果と今後の課題

本村浩之（鹿児島大学総合研究博物館）

5. 鹿児島大学における奄美群島の生物多様性研究

山根正気（鹿児島大学総合研究博物館）

参加者数：65名

（生態学会員 14名、動物学会員 2名、植物学会員 2名、会員外（学生） 13名、会員外（教職員） 13名、会員外（一般） 14名、奄美大島会場 7名）

第3回九州地区動物学談話会

日時：2013年8月16日（土）～17日（日）

場所：福岡大学くじゅうの杜キャンパス やまなみ荘（大分県九重町田野 230）

演題，演者：

1. 魚類咽頭歯の摂食時における運動パターンの観察

池永隆徳（鹿児島大学）

2. ナメクジの脳におけるアセチルコリン作動性神経の分布

松尾亮太（福岡女子大学）

3. ナメクジ脳のDNA増幅可逆性と脳再生能力の進化

魚住奈々（福岡女子大学）

4. ナメクジ脳内におけるヒスタミンの役割と分布

熊谷萌子（福岡女子大学）

5. マウス、ウシ精子頭部におけるTektin2、Tektin3の局在

肥山恵理奈（九州大学）

6. 生殖細胞の分化に伴うセリン合成酵素（PHGDH）発現の推移について

荒木敦之（九州大学）

7. チゴガニのウェービング行動と環境化学物質の関係

廣瀬陽（長崎大学）

8. コオロギの嗅覚学習に対するメチルキサントンの影響とその作用メカニズム

杉町誓児（長崎大学）

9. 昆虫アンテナへの接触刺激に対するアンテナ運動神経の応答

武田慎也（長崎大学）

10. カマキリ前胸神経節における運動ニューロンの同定

高木啓吾（九州大学）

11. ミツバチ脳における触角振動感受性ニューロンの応答様式

甲斐加樹来（福岡大学）

特別講演

12. 最近の分子進化学について思う

小泉修 (福岡女子大学名誉教授)

参加者数： 35 名

三学会合同宮崎例会

日時： 2013 年 11 月 9 日 (土)

場所： 宮崎大学農学部

演題, 演者：

1. 植物細胞における葉緑体形成の分子機構 ～タンパク質輸送からシグナル伝達まで～
稲葉丈人 (宮崎大学農学部生物生産)

2. 絶滅危惧種ウナギについて考える

香川浩彦先生 (宮崎大学農学部海洋生物環境)

参加者数： 22 名

三学会合同佐賀例会

日時： 2013 年 11 月 9 日 (土)

場所： 佐賀大学農学部

演題, 演者：

1. 根粒形成および菌根形成が光により制御される仕組み

永田真紀 (佐賀大学農学研究科) (植物学会)

2. どのアリに子を託す? —アリ散布型スゲ属 2 種の種子散布戦略とその適応意義—

田中弘毅 (鹿児島大学連合農学研究科) (生態学会)

3. 海を越えて移動するハスモンヨトウにみられる食草域の変異

藤條純夫 (佐賀大学名誉教授) (動物学会)

参加者数： 23 名

三学会合同熊本例会

日時： 2012 年 11 月 16 日 (土)

場所： 熊本大学大学院自然科学研究科

演題, 演者：

1. 「脳の形作り」の解明を目指して

畠山淳 (熊本大・発生医学研・脳発生)

2. 八代海におけるクロツラヘラサギの越冬・採餌生態と保全

高野茂樹 (熊本大・院・自然科学)

3. サツマイモネコブ線虫の植物感染過程における分子機構の解析

江島千佳 (熊本大・院・自然科学)

参加者数： 21 名

三学会合同福岡例会

日時： 2012 年 12 月 7 日(土)

場所： 福岡大学 18 号館 (理学部)

演題, 演者：

1. 柱頭葯間多型を示すジンリョウユリの近交弱勢

植物：横田静香 (九州大学大学院工学研究院環境社会部門)

2. アオモンイトトンボの雌二型維持機構

生態：澤田浩司 (福岡県立福岡高校)

3. ミツバチ脳内における触角振動感受性ニューロンの応答特性

～尻振りダンスの距離情報解読の視点から～

動物：甲斐加樹来 (福岡大学理学部地球圏科学科)

参加者数： 26 名

三学会合同鹿児島例会 (コア SSH 研究会と合同開催)

日時： 2013 年 12 月 7 日(土)

場所： 鹿児島大学理学部

特別講演演題： 「マメ科植物と根粒菌 ～共生の仕組みと窒素固定～」

特別講演演者： 阿部美紀子 (鹿児島大学大学院理工学研究科・教授)

高校生によるポスター発表： 18 件

高校生による課題研究ポスター発表-鹿児島県高校理科部会推薦：

1. ヒゲコガネの生態解明に挑む

鹿児島県立国分高等学校 サイエンス部昆虫班

2. 防音壁の研究

池田高等学校 SSH 課題研究物理班

3. 火山灰の降灰の期待値

池田高等学校 SSH 課題研究数学班

4. 火山灰からガラスを作る～ガラスに適した火山灰の模索と火山灰ガラスの応用

鹿児島県立錦江湾高等学校 化学研究部

参加者数： 130 名

三学会合同長崎例会

日時： 2013 年 12 月 14 日 (土)

場所： 長崎大学文教キャンパス

演題, 演者：

1. ゴキブリのアンテナにおけるパッシブタッチとアクティブタッチの神経機構

○武田慎也・岡田二郎（長大院水環）

2. 人工飼育下のチゴガニにおけるウェーピング行動の解析

○廣瀬陽（長大院水環）・藤崎顕彰（九大院シス情）・内田誠一（九大院シス情）・岡田二郎（長大院水環）

3. ヒラアオノリ配偶子の凍結保存

○金井剛志・桑野和可（長大院水環）

4. 長崎県の島嶼における高等植物フロラ

○東谷直哉・中島佑輔・中西こずえ（長大環境）

5. 済州島（韓国）の蘚苔類フロラとフロラ多様性

○任垠映（長大生産）・中西こずえ（長大環境）

6. 東部南太平洋のはえ縄漁業における海鳥混獲問題とトリラインと加重枝縄の併用効果の検証

○佐藤成祥（長大院水環 水研セ国際水研）・勝又信博（水研セ国際水研）・横田耕介（水研セ開発セ）・上原崇敬（水研セ開発セ）・伏島一平（水研セ開発セ）・南浩史（水研セ国際水研）

7. 白川河口干潟に優占する埋在性二枚貝 3 種の個体群動態と潜砂行動特性の関係

○竹内清治（長大院水環）・山田文彦（熊大院自然科学）・玉置昭夫（長大院水環）

参加者数： 34 名

三学会合同大分例会

日時： 2012 年 12 月 21 日（土）

場所： 大分大学教育福祉科学部

演題， 演者：

1. オオイタサンショウウオの卵・幼生の発育と溶存酸素量の関係

山本一成・永野昌博（大分大学院・教育）

2. 大分のタカの渡り

渡会満寿男（NPO 法人希少生物研究会）

参加者数： 30 名

熊本大学理学部主催公開実習「遺伝子を見てみよう」

日時： 1 回目 2013 年 11 月 10 日（日）；2 回目 2013 年 12 月 8 日（日），各 10 時～17 時

場所： 熊本大学理学部

対象： 熊本県内の高校生

内容：

1) 遺伝子の説明

2) 自分の口内上皮細胞から DNA を調整して、PCR により繰り返し配列がある DNA 領域を増幅（個人識別）

- 3) 蛍光顕微鏡による自分の細胞と核を観察
- 4) 電子顕微鏡により DNA および細胞を観察
- 5) 遺伝子改変個体（メダカとカエル）の観察

参加者数： 1回目 3名；2回目 6名

四学会合同沖縄例会（沖縄生物学会を含む：四学会合同沖縄大会の公開シンポジウム「琉球諸島の世界自然遺産登録に向けて：琉球諸島の生物多様性と保全の現状」として開催）

日程：2014年5月24日（土）

場所：琉球大学大学会館3階特別会議室

演題，演者：

1. 奄美・琉球諸島の世界自然遺産登録の課題

吉田正人 氏（筑波大学大学院・人間総合科学研究科・世界遺産専攻）

2. 琉球諸島の生物多様性保全のための保護区配置と生態系管理

久保田康裕 氏（琉球大学・理学部）

参加者数： 160名

第67回 日本動物学会九州支部大会（四学会合同沖縄大会）

日程：2014年5月24日（土）～25日（日）

場所：琉球大学共通教育棟

動物学会一般講演 演題，演者：

ポスター発表（四学会合わせて62題）

口頭発表

1. ゴンズイの超 pH 感受性を用いた摂餌行動

*清原貞夫(鹿児島大学)・John Caprio(Louisiana State University).

2. 受精の特異性はミドリイシ属サンゴの生殖隔離に関与するか？

*大木駿(琉大・熱生研)・Kowalski Radoslaw(Polish Academy of Sciences)・守田昌哉(琉大・熱生研).

3. ミドリイシ属サンゴに局在する種特異的な受精に関与するタンパク質の探索

*守田昌哉(琉大・熱性研).

4. 中枢神経系の起源と進化：刺胞動物の神経環

*小泉修・市丸ゆかり・稲葉貴子・美濃部純子(福岡女子大・人間環境).

5. 精子鞭毛の外側緻密線維構成蛋白質 ODF1 と相互作用する分子の解析

*尾立佳織・飯田弘(九大院・農・動物).

6. マウスにおける4回膜貫通型タンパク質 Ms4a13 の局在解析

*金子たかね・飯田弘(九大院・農・動物).

7. 哺乳類生殖細胞に局在する Tmco5A の解析

*福田敦子・金子たかね・飯田弘(九大院・農・動物).

8. ラット精巣上体における lipocalin10 の発現と局在

*池田瑛人・飯田弘(九州大院・農・動物学).

9. 社会性昆虫クロオオアリの巣仲間認識に関わる触角感覚子の嗅応答の特徴

*平田圭・Thomas Carle・渡邊英博・横張文男(福岡大・理・地球圏).

10. ワモンゴキブリ二次嗅覚ニューロンの匂い刺激応答と形態解析

*椋本聖悟・渡邊英博・横張文男(福岡大・理・地球圏).

11. 膜翅目類昆虫の脳構造の進化過程の解析

*原口貴寛・渡邊英博・横張文男(福岡大・理・地球圏).

12. アオダイショウにおけるアルビノ変異の原因遺伝子の解析

*財津将平 1、柴田弘紀 2、仁田坂英二 1 (1 九大・院理、2 九大・生医研).

13. ホヤ被囊軟化症の病原虫”ホヤムシ”はどこからマボヤの被囊に入るのか?

*広瀬裕一(琉大・理)・熊谷明・縄田暁(宮城県・水産技術)・北村真一(愛媛大・理).

14. チゴガニの集団的ウェービング行動の画像解析

*廣瀬 陽・岡田 二郎(長崎大院・水環)・藤崎 顕彰・内田 誠一(九大院・シス情).

参加人数： 235 名

11. 国際動物学会議開催

2016年に日本で開催される国際動物学会議に関して、委員会を組織して計画立案を行った。開催場所は沖縄県であるが、国内大会との合同とする企画を立てた。テーマは「New waves of zoological science in the 21st century」(仮)とし、現在、各分野で活躍中の研究者を基調講演に招聘することが順調に進んでいる。また概要は以下の通りである。

第22回 国際動物学会議 および 第87回 日本動物学会年会 合同大会

日時：2016年11月15日-19日(5日間)

会場：沖縄科学技術大学院大学(恩納村)、沖縄コンベンションセンター(宜野湾市)

主催：国際動物学会(ISZS)、公益社団法人日本動物学会

11/15-16は沖縄科学技術大学院大学で国際動物会議を開催し

11/17-19に沖縄コンベンションセンターで国内学会と国際動物会議との合同大会

11/19の午後が動物広場と公開講演会(那覇市)

-国際動物会議の大会委員長--佐藤矩行会員

国内学会の大会委員長--広瀬裕一会員

合同大会委員長--武田洋幸会員